

芥川龍之介・葛巻義敏旧蔵書を実見する意義

——山梨県立文学館・藤沢市文書館旧蔵書調査中間報告——

小 澤 純

1. 日本近代文学館「芥川龍之介文庫」について

芥川龍之介の旧蔵書の大半は日本近代文学館に所蔵されており、『〈日本近代文学館所蔵資料目録2〉芥川龍之介文庫目録』（日本近代文学館、一九七七・七）には、「図書・洋 638 点 809 冊」「和漢書 468 点 1822 冊」記されている。その後の資料収集も含め、現在、文庫目録増補版の刊行間近で、芥川家から新たに発掘された『絵入江の島鎌倉紀行』が伊藤一郎「〈新収蔵資料紹介〉百年の時を越え、幻の絵入紀行が出現した！——芥川龍之介と森鷗外の交流を記念する貴重な資料」（『日本近代文学館』No308、二〇二二・七・一五）で紹介されたばかりである。

また、二〇一八年から日本近代文学館 HP ではインターネットで貴重資料が検索できるようになったが、例えば「芥川龍之介」でキーワード検索（970 件、閲覧日、二〇二二・八・二六）した結果、以下のような資料があることがわかる。これらについても、丁寧に調査していく必要があるだろう。

- ・T0000441 印刷物 従撰州尼崎至長州萩府道中細見記：地図 / 芥川龍之介
- ・T0000676 印刷物 芥川龍之介全集内容見本 昭和 2
- ・T0003349 遺品 旧新約聖書 / 芥川龍之介 【閲覧不可】大正 3.1.8

- ・T0003350 遺品 NEW NATIONAL READERS / 芥川龍之介
- ・T0003351 遺品 五体千字文 / 芥川龍之介 弘化 4. 6
- ・T0003352 遺品 耕牧舎 牛乳の用法 / 芥川龍之介 明治 42. 9. 8
- ・T0018799 文書 東京畜牛仲買仲立営業組合 第一回年報 / 芥川龍之介
明治 42. 9
- ・T0018800 文書 牛疫発生臨時衛生部事務報告 / 芥川龍之介 明治 43. 8
- ・T0018801 文書 東京牛乳搾取販売営業組合新宿支部申合規則 / 芥川龍之介
- ・T0019373 遺品 仮名遣便覧抄本; 七松庵主人著 / 芥川龍之介 芥川龍之
介文庫
- ・T0022140 遺品 遺品『横浜開港見聞誌』（橋本玉欄斎著） / 芥川龍之介
芥川龍之介文庫

本稿では、芥川の甥であり晩年の芥川と同居して全集編纂等に堀辰雄たちと従事した葛巻義敏が深く関与した、山梨県立文学館と藤沢市文書館の旧蔵書資料について主に調査し、その中間報告を行いたい。

2. 山梨県立文学館「岩森亀一コレクション」の調査

葛巻が三茶書房店主・岩森亀一に貴重な芥川資料を順次売却したことをきっかけに、山梨県立文学館のコレクションは形成され、さらに増補されつつある。飯野正仁「山梨県立文学館所蔵「芥川龍之介旧蔵洋書」目録」（『資料と研究 第五輯』山梨県立文学館、二〇〇〇・一）、保坂雅子「山梨県立文学館所蔵「芥川龍之介旧蔵和漢書」目録」（『資料と研究 第九輯』（山梨県立文

学館、二〇〇四・三）が、それぞれ洋書二〇冊、和漢書二七冊＋関連書一冊を書き込みまで含めて紹介しており大変参考になる。今回の調査では、二〇二二年八月の段階で閲覧不可の資料（一四冊）以外の全てを実見した。なお、不可だった資料については、二〇二二年一月末より段階的に、館内デジタルアーカイヴで閲覧可能となった。閲覧室が再開する二〇二二年四月以降に、調査を再開する予定である。

実見したところ、飯野・保坂両氏による書誌情報および書き込みの翻刻の正確さがわかったが、いくつか興味深い発見があったので紹介したい。なお、蔵書資料は前掲の二つの目録の資料番号などに準拠する。

「十一、①「少年」合本（第七十八・第七十九・第八十一）②不明③時事新報社、一九一〇年二月二十三日・三月二十三日・五月二十三日」の第七十八号【図版1】八一頁の「考物」には、「次の文章の中に近頃世間で彼是れ言はれて居る韓国人が一人隠れて居」とされ、「家より家を逐出して女是れに代りしも、動くには力なく、恨めしき心を去りて木の左に立つ」というお題が出ている。筆跡は芥川かどうか定かではないが、「安重根」という解答が筆で書き込まれている【図版2】。安重根によるハルビンでの伊藤博文暗殺は一九〇九年一月二六日に起こった。一九一〇年三月二六日に安は処刑されるが、その直前にこうしたお題が少年雑誌に出されているのである。

実は、「三、①「学友会雑誌」第十五号②編集兼発行人 芥川龍之介③東京府立第三中学校学友会、一九一〇（明治四十三）年二月十日」を確認すると、中学を卒業間近だった芥川と事件との繋がりがよく見えてくる。『学友会雑誌』は芥川の歴史評論「義仲論」を巻頭に掲載していることが目立つが、奥付の

編輯責任者は芥川であり、「編輯を完りたる日に」をはじめ、複数の記事を担当している。「行事略記」の「十一月一日」の項には「故伊藤侯出迎の為生徒総代三名校長と共に正午より新橋に赴く」とあり、「十一月二日」には「講堂に於て故伊藤侯の功績経歴逸事等につきて校長及教頭の講話あり」、「十一月三日」には、「天長節の祝賀式を行ふ生徒総代芥川龍之介の祝辞及び校長の式辞」が続く。

そして芥川は「公伊藤の靈柩を迎ふ」【図版3】の記事を執筆し、「新橋の停車場」で、「真昼の淋しさと、偉人を失つた悲しさ」に浸り、「黒衣に掩はれた公の柩が砲車につて」通り過ぎるのを見送る。『芥川龍之介全集 第二十四巻』（岩波書店、第二刷、二〇〇八・一二）の「年譜」に記述はないが、芥川は中学校の代表として伊藤の死のセレモニーを目の当たりにしていたのである。後年の小説「疑惑」（『中央公論』一九一九・七）について、小谷瑛輔は『小説とは何か？——芥川龍之介を読む』（ひつじ書房、二〇一七・一二）の「第八章 近代日本の知と回帰する狂気——「疑惑」」で、災害時、妻を故意に殺害したという想念にとらわれた男に安重根を重ねる歴史的文脈を発見しているが、伝記的事実やメディアとの接点を傍証とした上で、さらに芥川の文学像を考える糸口になるのではないか。なお、『学友会雑誌』の埋め草にはニーチェや漱石などの短い引用が鏤められており、芥川の中学生編輯者としてのセンスを垣間見ることできる。

その他、「二十一、①『万国大年表』全②棚橋一郎・小川銀次郎合編③三省堂書店、一九〇七（明治四十）年六月十五日十九版発行」の扉前の遊び紙に「歴史のぬけがら」【図版4】と大きく筆で書いたことは、後に歴史小説を一

つの看板にする未来を思えば興味深いが、実は奥付の隣の「附録」頁の余白に薄く鉛筆で「長州」【図版 5】とメモしていることも見逃せない。芥川の実父・新原敏三は幕末に長州側で戦い負傷しており、「点鬼簿」（『改造』一九二六・一〇）でもその「小さい成功者」振りが描かれている。

3. 藤沢市文書館「葛巻文庫」の調査

葛巻の妹・左登子は、晩年の葛巻および親族が所持していた資料群を藤沢市に寄贈した。『芥川龍之介自筆資料目録（附・葛巻家資料目録稿）』（藤沢市文書館、二〇〇六・三）によれば、「I. 図書・カセット」は 226 点、「J. 雑誌・雑誌附録」は 77 点である。今回は、一九四五年以前の蔵書資料に絞って調査した。なお、蔵書資料は前掲の目録（稿）の資料番号などに準拠する。

まず、芥川生前に出版されていた洋書について触れたい。「I 1/A Gun-room Diety Box/G.Stewart Bowls/Cassell and Co.Ltd/1898 年再版」だが、扉には「RKawashima/13th 1899/Southsea」【図版 6】などと書かれ、葛巻の父・義定が暮らしていた北海道と関係が深いことがスタンプなどからも窺える。いかにも芥川の蔵書としても違和感がない「I2/The Exploits of Brigadier Gerard/A.Conan Doyle/Smith,Elder and Co/1912 年」でも、扉にはスタンプばかりでなく「葛巻義定」や朝鮮半島の「南羅」の印【図版 7】があり、陸軍獣医であった義定が持ち歩いていたと考える方が妥当だろう。二冊とも、芥川蔵書に多い「丸善」などのシールもない。

興味深いのは、「I4/一茶名句集/俳句研究会編/精文館書店/1921 年再版」の巻末に「一束之花」の朱印【図版 8】が押されていることである。『一

束之花』は、芥川が同居していた葛巻と共同制作した家庭内同人誌の名で、同誌のために芥川が執筆した作品原稿は、日本近代文学館の館内デジタルアーカイヴで閲覧することもできる。この『一茶名句集』の句にはいくつか鉛筆などで○が付いているが、芥川と葛巻のリクリエーションの痕跡を物語る可能性もあるだろう。家族間のネットワークという意味では、「J8／『四季』拾月号／四季社／1935 年」の表紙には、葛巻によって「(コレハさと子が札幌の古書店で手に入れたモノ)」【図版 9】と記されており、おそらく義定の許に左登子が身を寄せていた際に、兄の仲間である堀辰雄が編集する雑誌を見つけて購入し、遠くへと郵送したのではなかったか。書物の流通のあり方として興味深いし、兄の死後も左登子が「葛巻文庫」の貴重な資料を散逸させなかったことともどこか結び付くエピソードであろう。

最後に、目録（稿）には記載されていなかった二つの資料について紹介したい。まずは、表紙に筆で「L'ESPRIT NOUVEAU／Autour de La Fresnaye —J.Cocteau—」【図版 10】と書かれたフランス語の雑誌である。本来の表紙や奥付がないものの一九二〇年代の芸術雑誌 *L'Esprit Nouveau* であろうと、カラーグラビア【図版 11】などを参考に探した結果、第 3 号（1920. 12）であることを突き止めた。なお、早稲田大学図書館が全巻所蔵しており確認作業をすることができた。葛巻の手許にこの一冊だけが残ったのには様々な偶然があるかもしれないが、この芸術雑誌の存在と山梨県立文学館の資料から考えられる葛巻と坂口安吾たちとの交流については、別稿「「フアース」を“LA MORT”に感染させる——葛巻義敏「一人」と坂口安吾「風博士」の論争的布置——」（『坂口安吾研究』二〇二三・三刊行予定）で論じたので参照され

たい。

もう一冊は、半分以上の部分が残っていない状態のフランス語の書物【図版 12】だった。こちらには表紙・扉・目次・奥付もなかったが、タイトルは各ページの上部に掲げられているので、「LES BOLCHÉVIKI (1917-1919) / Étienne BUISSON / PARIS LIBRAIRIE FISCHBACHER / 1919」【図版 13】であることを突き止めた。同時代に目と鼻の先で起こったロシア革命を把握しようとする書物であり、安吾が示唆する葛巻とマルクス主義との関係を考えていく際に有益な資料となるだろう。

以上中間報告ではあるが、今後、山梨県立文学館の閲覧不可資料の館内デジタルアーカイヴを用いた調査、藤沢市文書館の一九四五年以降に出版された書籍・雑誌類の調査、そして日本近代文学館の芥川旧蔵書の調査を有機的に組み合わせて、作家や関係者の旧蔵資料群からアプローチできる新たな視座を構築していきたい。

【図版 1】



果ては
 處化
 理ま
 やう
 の日
 ある

といふ文を添つて下さい。
 ●第十五回和歌、俳句の課題は口繪に因んで
 「龜の子」
 と定めました。投書規則にはづれないやうに特に御注意願ひます。

考物

▲次の文章の中に近頃世間で彼れ言はれて居る韓國人が一人隠れて居りますから、其姓名を探し出して下さい。當選者には抽籤で例の通商會館を差上げます。家より家を逐出して女是れに供りしも、動くには力なく、恨めじき心を去りて水の左になつた

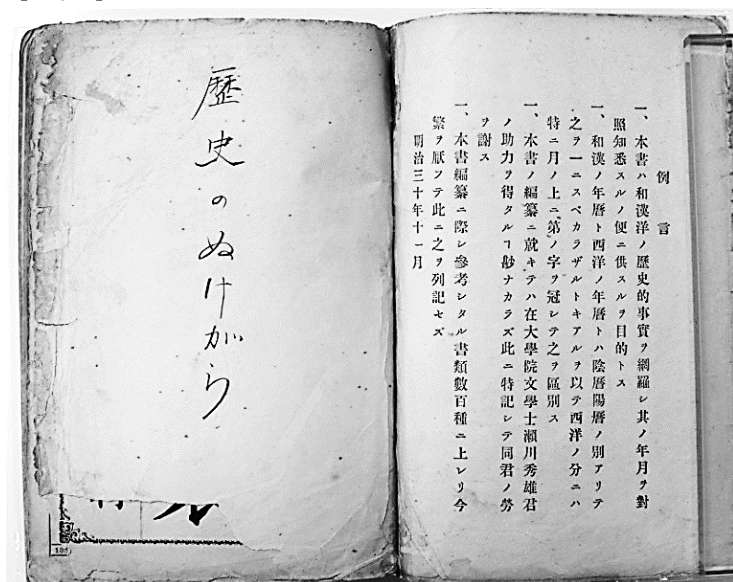
▲露土開戦とも稱呼は三月十五日の結果は來る五月號で御座います。終結に就いて法皇、貴族等は第一戰の功績を慰

(第七十七頁)

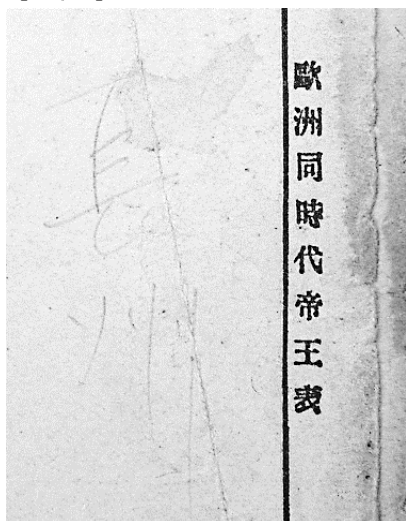
安重根

[illegible]

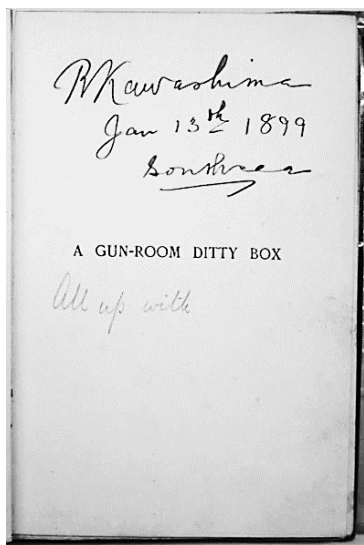
【図版 4】



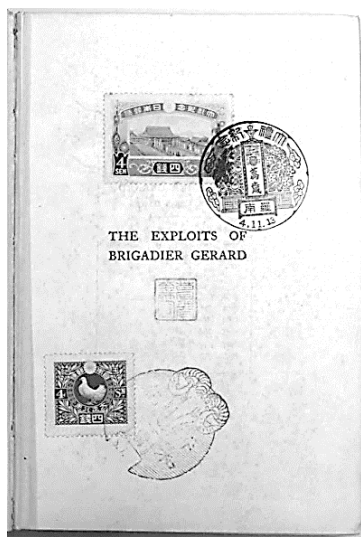
【図版 5】



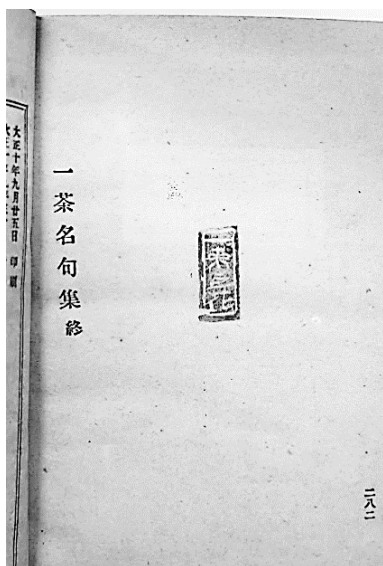
【図版 6】



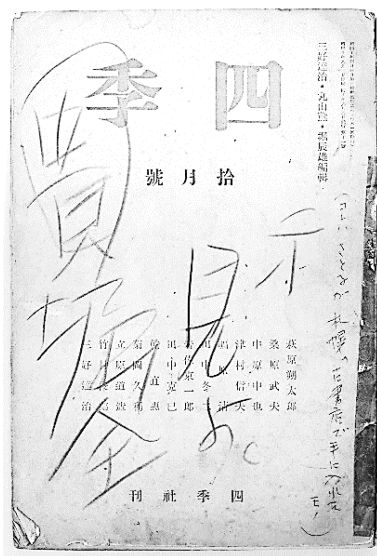
【図版 7】



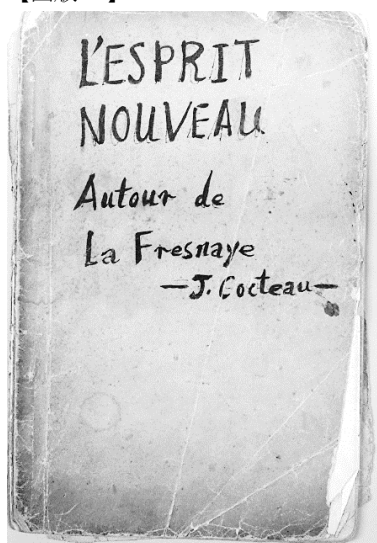
【図版 8】



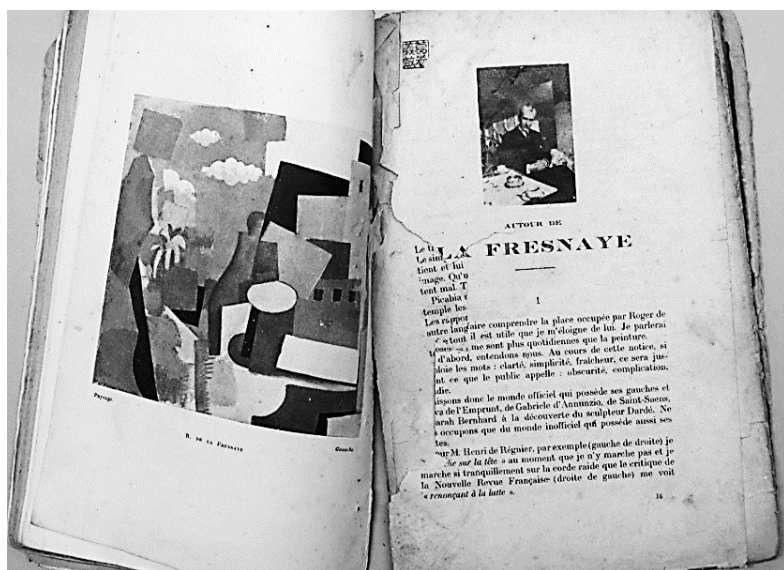
【図版 9】



【図版 10】



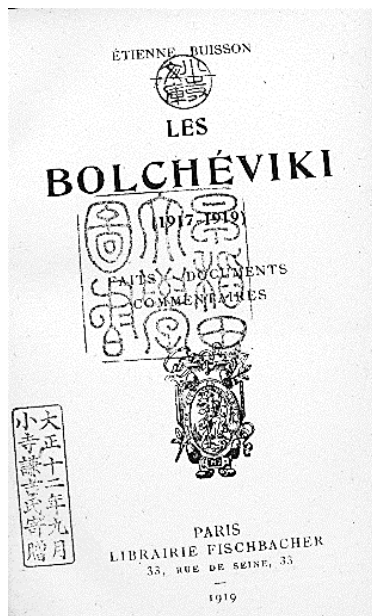
【図版 11】



【図版 12】



【図版 13】



[附記] 本稿執筆のための調査及び資料撮影では、山梨県立文学館、藤沢市文書館の皆様にご大変お世話になりました。謹んで御礼申し上げます。